

# 平成24年度 牛込第一中学校 学校経営方針

新宿区立牛込第一中学校長

赤沼 保江

## はじめに

今年度は、新学習指導要領実施の初年度になります。今回の学習指導要領は、「知徳体」のバランスのとれた「生きる力」をより一層育むことを目指しています。本校の学校教育目標が掲げるのは、まさに「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」という「知徳体」のバランスある生徒の育成です。

学校教育目標の具現化に向けて、昨年度に引き続き「不易」な生徒像を【自立】【共生】【健康】の3つのキーワードで今日的課題に結びつけ、4つの「今めざす生徒像」を掲げ具体的な取り組みを展開してまいります。

「確かな学力の育成」においては、シラバス(学習計画書)の有効活用、学習指導要領に基づいた各教科の指導の充実重点を置きました。「豊かな心の育成」においては、本校の特色の一つである「全校給食」を柱に全校体制での異学年集団との交流や体験的な学習の充実による社会性や豊かな人間性を育てていこうと考えています。「健やかな体づくり」では、全校給食での「食育」、部活動、自然体験で、耐性や体力の向上をさらに充実させていきたいと考えています。

以上のように「生きる力」の育成を中核に据え、「新宿区教育ビジョン」の基本施策に沿い、教育活動をPDCAサイクルの中で捉えて常に改善を図りながら、家庭、地域との連携のもと「地域と共に歩む」信頼される学校づくりを目指してまいります。

## 1、学校教育目標

人間尊重の精神を基盤として、国際的な視野に立った心豊かな国民を育成する

- |                 |   |      |   |       |   |
|-----------------|---|------|---|-------|---|
| 1、自ら考え、進んで実行する人 | → | 【自立】 | → | 確かな学力 | → |
| 2、思いやりのある情操豊かな人 | → | 【共生】 | → | 豊かな心  | → |
| 3、心身ともに健康で、明朗な人 | → | 【健康】 | → | 健やかな体 | → |

生  
き  
る  
力

## 2、今めざす生徒像

- 【自立】 → 1、目標を定め、意欲的に授業に取り組む生徒  
→ 2、学び続ける姿勢を持って、自己実現をめざす生徒
- 【共生】 → 3、自他を尊重し、社会性と思いやりのある生徒
- 【健康】 → 4、心身を鍛え、逞しく生き抜く力を持つ生徒

### 3、「今めざす生徒像」の具現化への取り組み

#### I 目標を定め、意欲的に授業に取り組む生徒

- ① 学習指導は授業が第一。「チャイムで始まりチャイムで終わる」50分授業で生徒の学習権を保証し、1時間1時間の授業の充実を図る。
- ② 授業を受ける際の基本（聞く態度、発言の仕方等）のさらなる充実を図り、基礎・基本の定着を図る。
- ③ 英語・数学の習熟度別少人数指導をはじめ各教科の特性を生かし、指導方法の改善を図り、生徒一人一人に対し、きめ細かな指導を行う。
- ④ 理科の授業における実験・観察や校外で実施される「解剖教室」「天文教室」等の体験を通して、理科への興味関心を深める。
- ⑤ 学校の情報化に対応し、効果的なICT活用により授業改善を図る。
- ⑥ すべての生徒に基礎的・基本的内容の定着を図るため、放課後等の補充教室を充実させる。
- ⑦ 各種検定（英語、漢字、数学等）に積極的にチャレンジさせ、生徒に自信と学ぶ意欲を喚起する機会の増大を図る。
- ⑧ 観点別絶対評価の妥当性を確保し、「認める評価」「励ます評価」により学ぶ意欲の喚起を図る。
- ⑨ 定期的な研究授業の実施を始め、OJTを有効に機能させた「互いに学び合う」校内研修体制を整備し、「授業力」の向上を図り、生徒への「確かな学力」の定着を目指す。

#### 今年度の重点課題1 学習指導要領の確実な実施による基礎基本の定着と活用力の育成

確かな学力の定着を図るためシラバス（学習計画書）の有効活用を図り、生徒に「わかる喜び」を与える授業、身についた知識技能を活用する学習を展開する。

#### II 学び続ける姿勢を持って、自己実現をめざす生徒

- ① 総合的な学習の時間では、牛一ネオタイム、生き方を学ぶキャリア教育、感動体験から伝統文化を学ぶ、この三つの取り組みを通して、常に課題意識を持ちその解決に向かう姿勢、自分の「よさ」を発見し、その「よさ」伸ばし自己実現をめざす態度を培う。
- ② 「牛一ネオタイム」では、自らの興味・関心に基づき課題を設定し、取材活動等により情報を集め調査・研究し、まとめ、発表をする活動を通して、思考力、判断力、表現力を育成する。
- ③ 3年間を見通したキャリア教育を意図的、計画的、継続的に実施し、生徒が将来に展望を持ち主体的な進路選択ができるようにする。
  - ・2年生で実施する職場体験学習（事前・事後訪問を含め5日間）
  - ・全学年による「上級学校を知ろう」・「校内ハローワーク」
- ④ 歌舞伎教室（全校）、美術鑑賞教室（1年）、音楽鑑賞教室（2年）、修学旅行（3年）等を通して、本物に触れる機会を拡げ感動体験を積み上げ、豊かな情操をはぐくむ。
- ⑤ 全教職員が一人一人の生徒の顔と名前を覚え、個々の生徒の違いを受け止め、生徒に寄り添うカウンセリングマインドによる指導姿勢を貫き、生徒理解を深める。
- ⑥ 年度当初の家庭訪問を主体とした教育相談、2学期はじめの個人面談、2学期末の教育相談等を通して、生徒理解を深めると共に、家庭との連携を密にし、一人一人の学習習慣の定着と学習意欲の向上を図る。

#### 今年度の重点課題2 読書活動の充実と学校図書館の有効活用

生徒と教師がともに行う全校一斉の朝読書を習慣化し完全に定着させる。また、昼・放課後等の学校図書館開放を推進して、読書に親しむ姿勢を育て、保護者の図書館ボランティアの活用による学校図書館の機能向上を図る。

### Ⅲ 自他を尊重し、社会性と思いやりのある生徒

- ① 「生徒が主体である」を総ての基本とし、二大行事である運動会、一中祭をはじめ生徒会活動における生徒の自主的活動を最大限支援し、自分を磨き、仲間と共に伸びる「善意の集団」をめざす学校づくりを推進する。
- ② 全校給食を通して、「協働」の意義を各自が自覚すると同時に、時間管理など集団生活における規律の習得を図り、規範意識の向上をめざす。
- ③ 異学年集団との「全校体制」での交流（全校給食、キャリア教育、ネオタイム等）を通して、自他を尊重する心、相手を思いやる心をはぐくみ、人権感覚を磨いていく。
- ④ 道徳授業地区公開講座等での地域人材（ゲストティーチャー）の活用を通して、地域の一員としての規範意識や公共の精神の高揚を図る。
- ⑤ 生徒と教職員との信頼関係を築いていくため、教員と生徒が触れ合いコミュニケーションを密にする時間（昼休み、放課後、部活動時等）確保に努める。
- ⑥ いじめについては、早期発見・早期対応に努めていく。さらに、生徒会活動、学級活動等を通して生徒自ら防止の気運を高めていくため、計画的、継続的な指導を行う。
- ⑦ 不登校生徒については、家庭との連絡を密にして信頼関係を築くとともに、スクールカウンセラーや区の教育相談室、つくし教室とも連携して、復帰ならびに卒業後の進路を見据えながらじっくりと対応する。
- ⑧ 特別支援教育については、特別支援教育コーディネーターを中心に生徒理解の研修を深め、「それぞれの違いを認め合う」支援姿勢で個々の生徒に対応し、ノーマライゼーションの浸透を図る。

#### 今年度の重点課題3 全校体制での「あいさつ」運動の展開

朝の「あいさつ」運動を生徒会役員や教員によって継続発展させていく。また、学校生活のあらゆる場面において、元気なあいさつを交わし合える気風を高め、一人一人を認め合う雰囲気づくりを全校体制で推進する。

### Ⅳ 心身を鍛え、逞しく生き抜く力を持つ生徒

- ① 全校給食を実施している本校の特色を生かし、食の大切さ、食の楽しさ、食のマナー等を日々の給食を通して知らせながら、偏食をなくしバランスの良い食習慣の定着を図る。
- ② 部活動は「生徒の特性や可能性を伸ばす機会」「学年を超えて教え合い技能を磨く場」としての意義は大きい。文武（部）両道を合言葉に全校体制で支えていく。
- ③ 移動教室（1年） スキー移動教室（2年）を通して、自然の美しさ、厳しさを実感すると同時に、集団生活における「協力する心、思いやる心、規律を守る心」をはぐくむ。
- ④ 安全・安心の学校をめざし、「学校安全計画」に基づき、学校内外の組織の見直しを図り、安全指導、避難訓練等の安全教育を強化していく。
- ⑤ 地球規模でのCO<sub>2</sub>削減への意識の高揚を図ると同時に、節電、節水、ゴミの分別等の省エネ・省資源に対する実践力を身に付けさせ、環境教育を推進する。
- ⑥ セーフティ教室では、三年間で下記の講座をすべて受講し、規範意識の向上を図る。
  - 1年 携帯電話安全教室
  - 2年 アルコール飲料との正しい接し方及びAED講習
  - 3年 薬物乱用防止講座

## 4、校外との連携強化をめざす長期的な課題

### I、小中連携教育の推進

- ① 「地域の子どもは地域の学校で」を基本に置き、地域小学校との連携を強化し、9年間を見通し、「学び」の継続を重視した教育を推進する。
- ② 出前授業をベースに、小・中連携を計画的に推進していく。土曜授業公開、運動会、一中祭等を通して地域の小学生へ本校の「よさ」を理解してもらう機会の増大を図る。
- ③ 学校公開日等を活用し相互の授業参観、新規採用教員の異校種研修等により、小中教員の交流の機会の増大を図り、相互理解を深めていく。
- ④ 教科研修会をベースに、生活指導等の合同研修会を実施し、指導の継続をめざす。

### II 地域と共に歩む学校づくり

- ① 保護者や地域住民へ学校公開・学校行事への参加を促し、肌で生徒の活動を理解してもらう機会の充実を図る。
- ② 各学期1回の土曜授業公開（1学期 教育課程説明会、2学期 新入生保護者説明会、3学期 牛一ネオタイム全校発表会）を設定し、更なる学校公開機会の増大を図る。
- ③ 生徒に地域の一員としての自覚を持たせ、地域行事への積極的な参加、さらに地域でのボランティア活動にも意欲的に取り組ませる。
- ④ 総合的な学習の時間や各教科の授業さらに部活動への地域の人材活用を積極的に推し進め、協力と連携の中で生徒を育成する。
- ⑤ 学校内外での生徒の健全育成上の課題解決のため、学校サポートチームを有効に活用する。
- ⑥ 自己評価の精度を上げ、学校関係者評価及び第三者評価を生かして学校改善に努め、信頼される学校づくりを推進する。

### 今年度の重点課題4 各種便りやホームページによる学校情報の発信

学校便り・学年便り等を通して、最新の学校情報を保護者、地域に発信し、理解と協力を得る。また、双方向のコミュニケーションツールとして学校ホームページの活用を図る。